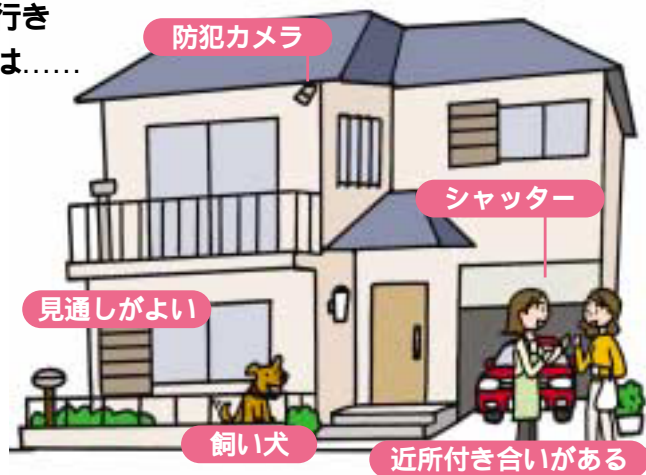


空き巣対策

住宅を対象とした侵入窃盗の多くを占めるのが空き巣。空き巣は犯行前に入念な下見を繰り返し、侵入しやすい家を探しています。防犯対策が行き届き、侵入に要する時間が5～10分以上かかる場合、空き巣は犯行をあきらめるといわれています。空き巣の侵入手口を理解し、空き巣に侵入されにくい住まいをつくりましょう。

防犯対策の行き届いた家とは.....



空き巣が狙う家 —ここが危ない

空き巣が好むのは、無防備で無警戒な家です。植栽や塀が高く、ドアや窓などが周囲からの死角となっている家や、カーポートなど2階に上るための足場がある家は要注意。集合住宅の最上階は屋上から侵入される恐れがあり、高層階に住んでいても安心はできません。

ドアの防犯対策

ドアの防犯対策は「ワンドア・ツーロック」が基本。錠はピッキングされにくい「ディンプル錠」などに取り替えましょう。強引にドアをこじ開ける手口に対しては、こじ開け防止のプレートや、不正な振動を感知する防犯ブザーの設置も効果的です。



窓の防犯対策

空き巣被害の多くは窓からの侵入です。クレセント(窓に備え付けられた三日月形の錠)付近のガラスを破って侵入されるため、補助錠の設置、防犯合わせガラスへの交換、防犯フィルムのはり付けなどが効果的です。格子を取り外して侵入されることもあり、格子付きの窓でも油断せずに、出かける前は必ず鍵をかけましょう。



庭・ベランダなどの防犯対策

ドアや窓の防犯対策を堅固にしても、庭や、ベランダに防犯対策がとられていなければ、侵入を許してしまいます。庭やベランダは植え込みの背を低くしたり、見通しのよいさくにしたしたりして周囲からの視線を遮る死角をつくらないようにしましょう。



留守を見破られないために

多くの空き巣は、侵入前にインターホンで呼ぶ、電話をかけるなどさまざまな方法で留守であることを確認しようとします。留守宅だと見破られないために、留守中もタイマーで電灯やラジオ、テレビをつける、旅行に出かける際は郵便受けに新聞などがたまらない手配をする、近所の人に管理を頼むなどの対策をとりましょう。

泥棒の侵入に気づいたら

警察に通報し、警察の指示に従う

賃貸住宅なら管理人に連絡する